

## これからの社会を 生き抜く学生について 思うこと

法学部長

榎透 教授

↑神田2号館にて

昨年9月に法学部長を拝命致しました榎透と申します。専門は憲法学です。高校生の時に読んだ本をきっかけに憲法に興味をもち、その本を執筆した先生がいる九州大学で学びました。現在は教員として憲法を教えています。憲法は法学部の中では基本的な科目の1つですので、学生には真剣に勉強してほしいと思います。

憲法は公権力を制限し国民の権利を保障する法です。憲法に定められている事項は、公権力を行使する公務員が遵守すべきものです。というのも、公権力は、統治権——立法・行政・司法——という民間人にはない絶大な権力をもっているからです。その絶大な統治権を持つ公権力を制限する法が、憲法です。法学部に入学してくる学生でも、実は他分野の研究者でも、この基本を知らなかったり、あるいは、重視していなかったりします。私は憲法上の規定の私人間効力（私人間にも効力を及ぼすか否か）という問題や、公権力が扱う業務の民間化の問題を通して、現代の日本社会においてもこのような憲法観を

語ることの積極的な意義について研究しています。

### 今の学生について思うこと

縁あって専修大学に入職し、早いもので今年度で21年になります。入職当初は学生からすれば兄のような存在だろうと勝手に思い、学生に接していました。幸いなことに、本学では人間として魅力的な学生に恵まれ、楽しく教員生活を過ごしてきたと思います。とはいえ、いつの間にか、私も学生からすると父親のような年齢となり（私も大学生の親ですので、ご父母・保護者の皆様と同世代です）、今の若者と感覚がズレていると思うことも正直ないではありませんが、自分自身も学生の変化に対応すべく、時には温かく、時には辛抱強く接しています。

学生の学修のスタイルにも変化があります。例えば、講義ではノート型パソコンでメモを取る人が増えましたし、ゼミでは事前に文献を渉猟して準備する学生が減りました（調べごとはその場でスマホで

## えのき とおる

1972年埼玉県生まれ。九州大学法学部卒業、同大学院比較社会文化研究科博士後期課程単位取得退学。博士（比較社会文化）。2005年専修大学法学部講師、2015年教授。著書に『憲法の現代的意義——アメリカのステイト・アクション法理を手掛かりに——』（比較社会文化叢書Ⅻ）（花書院、2008年）。主要論文に「民間組織の活動と憲法——公私関係の変容を踏まえて——」公法研究80号（2018年）、「権力の濫用——ヘイト・スピーチ規制を考える前に——」専修法学論集144号（2022年）。



行う人が増えている、ということです）。また、教員間の話ではレポートの作成に生成AIを利用していただけるものが増えたと話題になっています。最新技術の登場によって私たちの生活は大きく変化していますが、若い学生はそうした環境の変化に上手に対応しているということでしょう。ただ、気になるのは、以前に比べて、試験で答案を書けなくなっている学生が増えているように感じることで。どの学問でも当てはまることですが、試験で合格点を取るには、基本的な事項を正確に理解した上で必要なことを覚え、それを使いこなすことが必要です。しかしながら、そのようなことが以前の学生に比べて苦手になっているのかもしれない。

### 知的なたくましさを

中でも生成AIの登場は学生の学修に大きな影響を与えていると思われます。もはや使うなどと言っても使うでしょうし、社会人になっても仕事で使うことを考えて、先日、私のゼミナールでは無料で利用できる生成AIを用いた授業をしました。過去に出された公務員試験の1行問題（「〇〇について説明しなさい。」というタイプの問題）を生成AIに解答させ、その答案をゼミ生に示しました。ゼミ生には、採点者としてその答案を読んだときに、何が正確に書けていて、また、何が不足しているのかを検討させ、そのうえで、生成AIにさらにどのような問いかけをすれば良い解答になるのかを考えさせました。

実はこの答案、私からみると合格点をつけるかどうか非常に悩ましいものでした。ゼミ生の中には、合

格点を与えないとした学生がいる一方で、70点をつける（合格最低点は60点です）と宣言した学生もいました。当たり前の話ですが、機械的な作業であればともかく、問いに対する知識や理解がなければ、生成AIの解答を評価することはできません。質問に関する領域について基礎力のある人であれば、生成AIを使いこなせるでしょう。これからの学生は、入手した情報を鵜呑みにすることなく、それを上手く使いこなす術を身につけることが必要です。

これまで私たちの社会生活の基盤を形成してきた考え方が動揺し、私たちの生活を根底から変える可能性があり、これからの社会では、どのような生き方をするにせよ、大変でしょう。どのような状況にも対応できるよう、学生には知的なたくましさを備えてほしいと思います。

### ご父母・保護者の皆様へ

ご父母・保護者の皆様の学生時代と、現在の学生とでは、学修、就職、学生生活などの環境が異なるところもあるでしょう。学生の一番の理解者がご父母・保護者であることはいうまでもありませんが、ご子女が学修、就職、学生生活などで困っていることがあれば教職員に相談することもできます。また、キャリアデザインセンター、エクステンションセンター、国際交流センターなど、大学にはさまざまな部署で企画や講座などがあります。学生には、大学が用意している多様な資源を有効に活用してほしいと思います。ご父母・保護者の皆様には必要に応じて、ご子女にこれらの活用を促していただきますようお願い申し上げます。